

課題1 次の文章を読んで、(1)から(4)に答えましょう。

わたしたちは毎日、いろいろなものを読んでいます。例えば、学校の授業では、教科書を読みます。国語や道徳の授業では、物語や説明文、伝記などを読みます。また、算数や理科の授業では図形や式、グラフなどの資料を読むこともあるでしょう。しかし、わたしたちが読むものは「これだけではありません。友だちからもらった手紙、新聞やインターネットのニュース、あとに示した「クリーン作戦の案内文」のようなものもあります。そして、その内容を理解しながら、わたしたちは生活しています。

書かれたものを読み、内容を理解する力を「読解力」といいます。以前は文章を読むときに使う言葉だという印象がありましたが、最近では文章に限らず「資料」の読み取りなどもふくめて、広い意味で使われるようになってきました。小説の主人公の気持ちを読み取るときにも、複数のグラフから問題点を考えるときにも「読解力」が必要だということです。このような「読解力」について、長年、中学校や高等学校で国語を教えた村上慎一さんは、著書の中で次のように述べています。

「言葉を見がき、精密な運用を目指す『国語』という教科は、『人生』のすぐ近くにある。『なぜ国語を学ぶのか』という問いへの答えは、シンプルである。よりよい人生、より豊かな生のために学ぶのである。」

その思いは、今も変わらない。ひとは、言葉以外のものでも思考できない。言語のレベルと思考のレベルは比例する。ひとが言葉で生きる存在である以上、言葉の精密な運用は人生に直接かわると思う。長らくそう考えて、私は「国語」という教科を教えてきた。「国語」という教科の推進力は「読解力」だと思いの延長線上には豊かな生への思いがある。

「読解力」は、「読むこと」だけに働くわけではない。「聞くこと」はもちろん、「話すこと」「書くこと」のベースには「読解力」がある。「読解力」とは、言葉の表現者の意図を正確に読み、それを自分の言葉に置き換えて解釈する力である。表現者の意図を読み取るには、表現者の立場や心情に対する想像力が求められる。疑問が生じ、どうということかと自分の頭で考えてみることも当然あるだろう。読解力とは想像力、思考力の鍛錬である。その鍛錬がなければ、自らが言葉による表現者になることはないように思う。

私が「国語」という教科で求めてきた「読解力」とは別の「読解力」が話題になることが多くなったという気がする。言葉は「読解力」で同じだが、大きな違いがある。これまで国語で学ぶことをしてきた「読解力」が「人生」に直接かわるものであったのに対し、^{*3}「昨今話題の「読解力」は「生活」にかかわるもののようにみえる。「生活」の役に立つ「読解力」は、どうしてもよいと思っているわけではない。たとえば、「実用的な文章」の読み取り、図や表といった「資料」の読み取りなども、おろそかにしてはいけないのだと思う。これらの読み取りが必要だとして、どのようにその「読解力」を鍛えたらよいのだろう。すでに「実用的な文章」の読み取りや「資料」の読み取りを自分のものにしていく人がどのようなプロセスを経てそれらの読み取りを自分のものにしたかを考える必要がある。(村上慎一著「読解力を身につける」前書きより 出題のために一部改めた所があります。)

- *1 ベース：…土台、基本
- *2 鍛錬：…きたえること
- *3 昨今：…このごろ
- *4 プロセス：…物事を進める順序

ここでは「読解力」が大きく二つに分類されています。そして、それぞれの「読解力」には違いがあると村上さんは考えています。わたしたちが生きていく上で、「読解力」は欠かせません。二つの「読解力」を身につけることで、よりよい人生、より豊かな生を手に入れることができるのではないのでしょうか。

①※

②※

1※

2※

3※

※

「クリーン作戦の案内文」

令和〇年〇月〇日

△△町内会のみなさま

□□□市立△△小学校
児童会長 岡山 太郎

△△小学校区クリーン作戦のご案内

新緑がまぶしい季節になりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回私たち△△小学校児童会では、学区のクリーン作戦を計画しました。

△△町内会のみなさまにも、この活動に協力していただければと思っています。参加できる方は次のとおり、お集まりください。

たくさんの人の参加を待ってます。

記

1 日時 令和〇年11月〇日(土) 午前9時～午前11時

2 場所 △△公園

(1) 「クリーン作戦の案内文」について、次の①、②の問いに答えましょう。

① クリーン作戦は11月に行われるため、この案内を10月に配布することにしました。点線部分「新緑がまぶしい季節になりました。」を季節にふさわしい文に書き直しましょう。

[Blank box for answer 1.1]

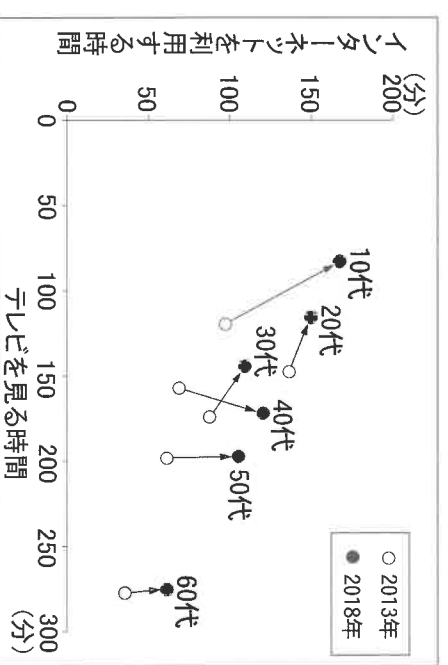
② 文中 [] 部分の「たくさんの人の参加を待ってます。」を、敬語を使った文に書き直しましょう。

[Blank box for answer 1.2]

受検 番号	
----------	--

課題3 太郎さんと花子さんは、くらしの中のさまざまな情報や生活の変化について、先生を交えて話し合いました。あとの会話を読んで、(1)～(3)に答えましょう。

資料1 2013年と2018年における年代別テレビ・インターネットの平日1日当たりの利用時間の变化

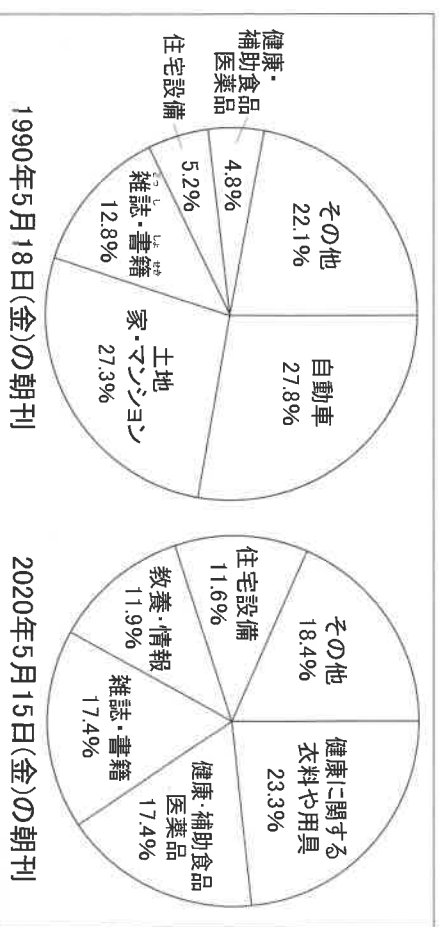


先生：世の中には多くのメディアが存在します。みなさんはテレビやインターネットをどのくらい利用しているのでしょうか。資料1を見てみましょう。
 太郎：グラフの矢印には、どんな意味があるのかな。
 花子：10代から60代までのそれぞれの年代について、テレビを見る時間とインターネットを利用する時間の変化が分かるのではないかな。
 先生：そうですね。ではこの資料を見て、10代から60代までの6つの年代について、利用時間が5年間でどのように変化したかを考えてみましょう。

(1) テレビを見る時間とインターネットを利用する時間について、資料1の6つの年代を变化の持ちようによって大きく2つのグループに分けたいと思います。あなたならどのようなグループに分けますか。分けた理由もふくめて書きましょう。

※	
---	--

資料2 新聞広告の内容



※紙面に掲載されたすべての広告に対する面積比による。(朝日新聞縮刷版から作成)

(2) 資料2を見ると、30年間で新聞広告の内容が変化しています。「世代」という言葉を必ず用いて1990年と2020年の持ちようを比べながら、変化した理由として考えられることを書きましょう。

※	
---	--

先生：現在、さまざまなメディアを通じて多くの情報を得るだけでなく、自分たちで情報を発信することもできる時代になりました。そのことで、社会とわたしたちの関係はどのように変わったのでしょうか。
 太郎：例えば、自分の意見や良さを発信する機会が少なかった人でも、積極的に発信できる機会が増えてきていると思います。
 花子：つまり、情報化が進むことで、これまでよりも社会との関わりを強めることができるようになったということですね。

(3) これまで自分の意見や良さを社会に向けて発信する機会が少なかった人が、情報化が進むことによって積極的に発信し、社会との関わりを強めることができるようになった例としてどのようなものがありますか。解答らんの「ア」には、発信する機会が少なかった人を、「イ」には、発信した内容と、発信したことで社会との関わりを強めることができるようになった例を書きましょう。

ア		人が、情報化が進むことによって
イ		